

最先端技術で、事業領域を拡大する

代表取締役社長CEO 後藤 秀隆氏



松屋R&D

大野市鍛掛20-1-2

AIを搭載した最先端技術を追求し、ソーイングのオートメーション化で、欧州・アジアでエアバッグやカーシートなどの製造を自動化。2020年に東証マザーズに上場し、長引くコロナ禍の中で成長を続けている。

「今年には縫製自動機や縫製品事業を見直し、成長産業であるメディカルヘルスケア事業とセーフティ事業に力を入れる」と意気込む。

メディカルヘルスケア事業では、「今年一番のテーマ」として脳梗塞のリハビリ用ロボットおよび

周辺機器の開発と販売を挙げる。東京にリハビリロボットを導入したリハビリセンターの開設も検討し、事業を広げていく。世界シェアの半分

以上を占める血圧計の腕帯生産は、150%の増産に向け生産設備を拡充。県内企業と提携するDXを見据えた最先端ウェアラブル機器や、大手メーカーとの取り組みを模索する人工血管の製造装置の開発も推進。医療用防護服も自動機関係を含め製造を行っていく。セーフティ事業は、エアバッグおよびカーシ

ト製造で新規の受注が増えた。昨年から着手する最先端の縫製用3Dロボットは、今年前半にプロトタイプが完成。欧州での子会社設立やM&Aによる投資案件なども控え、売上高・利益のさらなる向上を狙う。

研究開発を担うベトナムのマツヤインベーションセンター(MIC)は、「今後30〜50人体制に引き上げ、優秀な人材を育てて日本やヨーロッパに向け人材派遣も行いたい」と展望する。

「昨年は、22年度に向けての踊り場のところがあった。今年は最高益を目指したい」と締めくくった。